

RS ウイルスの予防接種について

RS ウイルス感染症について

RS ウイルスは、特に小児や高齢者に呼吸器症状を引き起こすウイルスで、2歳までにはほぼ100%の乳幼児が、少なくとも1度は感染するとされています。感染すると、発熱、鼻汁、咳などの症状が数日続きます。初めて感染した乳幼児の約7割は軽症ですが、約3割では咳が悪化し、喘鳴（ゼーゼーと呼吸しにくくなること）や呼吸困難、さらに細気管支炎の症状が出るなど重症化することがあります。

対象者

接種日に久留米市に住民票があり、接種当日に妊娠28週～36週6日の間にある妊婦さん

※接種後14日以内に出生した乳児における有効性は確立していないことから、妊娠38週6日までに出産を予定している場合は医師に相談してください。

ワクチンの効果と副反応

【効果】

母子免疫ワクチンとは、妊婦が接種すると、母体内で作られた抗体が胎盤を通じて胎児に移行し、生まれた乳児が出生時から病原体に対する予防効果を得ることができるワクチンです。

	生後90日時点	生後180日時点
RSウイルス感染による医療受診を必要とした下気道感染症の予防	6割程度	5割程度
RSウイルス感染による医療受診を必要とした重症下気道感染症（※1）の予防	8割程度	7割程度

※1 RSウイルス検査陽性の乳児で、多呼吸・SpO2 93%未満・高流量鼻カニューラ、または人工呼吸器の装着・4時間を超えるICUへの収容・無反応・意識不明のいずれかに該当と定義

【副反応】

接種部位の疼痛、紅斑、腫脹や頭痛、筋肉痛、発疹、蕁麻疹などの報告があります。また、頻度は不明ですが、ショック・アナフィラキシーがみられることがあります。

予防接種を受けることができない人

1. 明らかに発熱（通常37.5℃以上）をしている方
2. 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな方
3. RSウイルスの予防接種に含まれる成分で、アナフィラキシー*を起こしたことがあることが明らかな方
4. その他、医師が不適当な状態と判断した場合

上の1～4に当てはまらなくても医師が接種不適当と判断した時は、予防接種を受けることはできません。

*アナフィラキシー：

通常接種後約30分以内に起こるひどいアレルギー反応のことです。汗がたくさん出る、顔が急にはれる、全身にひどいじんましんが出るほか、はきけ、嘔吐、声が出にくい、息が苦しいなどの症状やショック状態になるような、はげしい全身反応のことです。

予防接種を受ける際に注意を要する場合

以下に該当すると思われる方は、かかりつけ医に相談し、予防接種を受けてよいかどうか判断してもらいましょう。

1. 心臓病、腎臓病、肝臓病、血液疾患等の基礎疾患を有する方
2. 予防接種で、接種後2日以内に発熱や全身の発疹等アレルギー症状があった方
3. けいれんを起こしたことがある方
4. 免疫不全の診断がなされている人及び近親者に先天性免疫不全症の者がいる方
5. 組換えRSウイルスワクチン（アブリスボ®）の成分に対してアレルギーを起こすおそれのある方
6. 妊娠高血圧症候群の発症リスクが高いと医師に判断された人、今までに妊娠高血圧症候群と診断された方

予防接種を受けた後の注意

1. ワクチン接種後は一定時間安静にしてください。
2. 接種後、1週間は副反応の出現に注意しましょう。
3. 接種部位は清潔に保ちましょう。入浴は差し支えありませんが、接種部位をこすることはやめましょう。
4. 接種当日は、はげしい運動は避けましょう。
5. 接種後、接種部位の異常な反応や体調の変化があった場合は、速やかに医師の診察を受けましょう。

※非常にまれですが、予防接種法に基づく予防接種を受けた方に健康被害が生じた場合、その健康被害が接種を受けたことによるものであると厚生労働大臣が認定した時は、市町村により給付が行われます。久留米市保健所保健予防課までご相談ください。